

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19390550

研究課題名（和文）看護実践の質向上を導く看護支援システム構築に関する研究

研究課題名（英文） Investigation of Development of the Computerized the Nursing Support System for Quality Improvement in Nursing Practice

研究代表者 黒田 裕子 (KURODA YUKO)
北里大学・看護学部・教授

研究者番号：90234616

研究代表者の専門分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護支援システム、電子カルテ、看護実践

1. 研究計画の概要

(1)看護実践の質向上を目指す看護支援システム(以下、システム)構築に有用なシステム内容の仕様書を作成する

(2)上記のために、平成 19 年度前に実施した前回科研の本調査結果を再分析することから、今回の本調査へ向けた研究計画を再検討する。そのために予備調査を実施する

(3)予備調査を踏まえて平成 21 年に本調査を実施、これを分析することから、熟練看護師がシステムからどのような情報をなぜ必要と考えて収集しているのか、収集の際にどのようなアセスメントをして看護実践へと結びつけているのかを明らかにする

(3)平成 22 年度は 3 年間で累積した調査結果から未だ明らかになっていないシステムを操作する熟練看護師の思考パターンを明らかにすることで、システムに必要とされる全体的要件と個別要件を明らかにする

2. 研究の進捗状況

(1)平成 20 年 5 月～9 月に実施した予備調査の結果、本調査の研究方法は、①システムとの相互作用が最も多い勤務前の時間に集中してデータを得ること、②熟練看護師は思考しながらシステムから情報を得ているために、思考を声に出してもらい Think Aloud 法を使用すること、③熟練看護師がその勤務帯で初めて受け持つ患者の情報収集場面に限定する必要があること、の 3 点が明らかとなり、これを研究方法に取り入れ、本調査を実施した

(2)平成 20 年 9 月～平成 21 年 2 月に本調査を実施し、分析した結果、看護師が実践へと繋げるシステムからの情報収集に伴う思考

は、①短時間であり最小限の時間で最大の情報を得ようとする努力が見られること、②システムからの情報は紙媒体に比して短時間で最大の得たい情報を映像や時系列値から得ていること、③システムの画面スクロール機能は、一人の患者に対する必要事項を熟練看護師の思考次第で操作できるために効率的に得られていることが判明した。

(3)システムの構造と機能の不具合が看護師の思考を妨害する可能性があることも、本調査結果から判明した。

(4)どのような機能と構造を兼ね備えた看護支援システムが看護実践の質向上を導くために必要とされるのかをさらに模索するために、システムを操作する熟練看護師の思考パターンをさらに究明していくことで、システムに必要とされる個別要件をより明らかにする必要があることが判明している。

3. 現在までの達成度

(区分)

おおむね順調に進展している

理由：看護実践の質向上を目指す看護支援システム構築に有用なシステム内容の仕様書を作成することを本研究の最終的な目的としているが、システムに必要とされる全体的要件は既に判明しているので仕様書のほぼ 7 割は完成している。今後は個別要件を明らかにすることで残りの 3 割を目指す。

4. 今後の研究の推進方策

(1)最終年度のために、初年度から最終年度にかけての成果を研究報告書として平成 22 年度末までに作成すること

(2) システムに必要とされる個別要件を明らかにするために、熟練看護師と新人看護師のシステムに伴う思考パターンを比較検討する。

(3) 看護実践の質向上を導く看護支援システムの仕様書を完成させる

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 5 件)

〔学会発表〕 (計 10 件)

〔図書〕 (計 5 件)

代表的な 5 件

1. 古庄夏香・黒田裕子・安藤敬子・小田正枝・林みよ子他、電子カルテ稼働中の施設における看護師の思考過程の分析、看護診断、査読有、13 巻 1 号、2008 年、5-12 頁

2. Kuroda, Y., Kashiwagi, K., Hayashi, M., Nakayama, E., Oda, M., Yamase, H., & Nakaki, T. A nation wide investigation of the rate of diffusion of computerized medical records as reported by nursing staff, JAPAN Journal of Nursing Science (査読有)、4(2)、79-84、2007

3. 山勢博彰・伊東美佐江・黒田裕子・岡崎寿美子・城戸滋里他、電子カルテシステムの有用性に関する臨床看護師の認識、看護診断、査読有、12 巻 1 号、2007 年、27-34 頁

4. 石井真・黒田裕子・中山栄純・小泉雅也・林みよ子他、看護師が受け止める電子カルテシステムの利点と課題—看護師の思考過程との関連性から見た分析、第 14 回日本看護診断学会学術大会、2008 年 7 月 5 日、横浜市。

5. Ito, M., Yamase, H., Kuroda, Y., Okazaki, S., Kido, S., Nakayama, E., Hondo, F., Hayashi, M. et al., Japanese nurses' perspective of electronic health record systems, ICN Conference and CNR, 27 May, Yokohama Japan.

以上